

### 自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>・理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	・当ホーム開設時に、認知対応型共同生活介護の運営基準に基づいて内容を検討し、「ほほえみの家・理念」を作り上げている。	・地域密着型サービスに位置づけられたグループホームとして、ご利用者様の地域に根ざした生活支援がより良く築いていけるよう理念の実現にむけ、ホーム企画のお茶飲みサロン等を計画していきたい。
2	理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	・ケア会議時など随時、理念に触れ意見・認識の統一を図っている。	
3	家族や地域への理念の浸透  事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	・グループホーム通信「かぼちゃ通信」の発行を計画し、関係する皆様へホームへの理解を深めて頂けるよう取り組んでいる。 ・本年度は、「かぼちゃ通信・地域版」を創刊し、地域への発信に取り組んでいる。	・地域運営推進会議や、地区社協の会合時など、事業所の理念に基づいた実践を伝えていく取り組みを継続していく。
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	隣近所とのつきあい  管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている	・散歩や買い物の折等、出会う人には積極的に挨拶を行い、知り合いの方に出会った時には、懐かしく会話出来るよう、お茶飲みに立ち寄って頂いたりしている。	・「かぼちゃ通信地域版」の内容の充実や継続により、地域の方々へほほえみの家の日常の様子を知って頂けるよう努め、近隣の方が気楽に寄って頂ける様な働きかけをしていきたい。 ・災害時の応援協力者(特に火災時)の確保。
5	地域とのつきあい  事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	・地域の清掃運動・地区の運動会・文化展への参加を初め、ご利用者様の自宅地域でのふれあいサロン参加支援や、地区社会福祉協議会の会合に職員の参加、地区ボランティア開催による「めるへん喫茶」にご利用者様と参加し交流を深めている。	・地域在住スタッフの協力もあり、地域との交流を多く持っている。今年度の実績を次年度につなげられるよう今後も計画していく。

駒ヶ根市認知症高齢者グループホームほほえみの家

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6 事業所の力を活かした地域貢献  利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	・地域住民からの問い合わせ等については、認知症介護の専門職として相談にのり、必要な情報提供やアドバイスなど出来る事から取り組んでいる。		・認知症介護の専門職として、地域住民からの相談援助、アドバイスを初めとし、認知症理解への啓蒙を地域へ向けて行って行きたい。 ・災害時、生活弱者の避難所として、受け入れ体制を整える。
<b>3. 理念を实践するための制度の理解と活用</b>			
7 評価の意義の理解と活用  運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	・職員全体で自己評価に取り組み、振り返りや見直しを行い、実践につなげていく努力をしている。		
8 運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・グループホームの暮らしの様子を写真等で紹介したり、ホーム便りの「かぼちゃ通信」をお渡ししながら、ホームの理念に基づく支援の実際を報告している。 ・地域防災応援協定等について意見・提案を頂き、安心の支援体制作りにつなげている。		・地域との連携をより深めていく会にして行く為に新たに参加する会議構成員を検討していきたい。 ・会議後はご利用者様や他のスタッフともオープンな交流の時間が持てるように、お茶に参加して頂いたり、行事の機会に交流して頂ける内容を検討している。
9 市町村との連携  事業所は、市町村担当者や運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	・ご利用者様へのよりよいサービス内容検討のため、市担当者、包括支援センター担当者などから情報提供を受け、また相談にのって頂くなど連携に努めている。		
10 権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	・研修には積極的に参加し、研修報告として随時伝達説明し理解を深めている。 ・必要なケースについては、社協の担当者と支援協議を行っている。		
11 虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・積極的に研修参加、ケア会議にて伝達理解を図り、実際の場面での対応等についても話し合いを持っている。		・定期的な学習会や普段の援助についての振り返りをケア会議に組み込んでいく。

駒ヶ根市認知症高齢者グループホームほほえみの家

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>・特に契約終了となる場合には、その後の生活支援に不安が残らないよう、十分な説明に加え支援のあり様を共に考えて行くよう心がけている。</p>	<p>・ご利用様が重度化されたり、また長期入院等で医療的支援が必要になった場合、現状を捉えながらご家族様との面談を実施。ご本人・ご家族様の意向を伺う中、ホームでの可能な支援の状況を説明しつつ、より良い支援の方向を共に考えて行けるよう努める。</p>
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>・ご利用様やご家族様の意見や、日常の会話から不満や要望を察し、改善に向けての話し合いを実行している。</p>	<p>・ご利用様の意見要望を細やかに察し、汲み上げて行けるよう、話しを伺う機会を充実させていきたい。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>・定例でご家族様会を開催、ホームとの情報交換を密にすると共に、面会の折に近況や健康状況について報告また個別便り(生活の様子がわかる内容の物)を作成し、報告を行っている。 ・金銭管理については預かり金を頂いた時や、ご家族様会の折に出納帳を確認して頂いている。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>・何かの折にも、忌憚のないご意見を出して頂けるよう日常から「何でも言って頂ける環境づくり」に努めている。ご家族様のつぶやき・ご意見・心情を受け止め、ホームの取り組み内容を検討改善できるよう努めている。</p>	<p>・ご家族様会の折には、ご家族様だけで話し合いを持てる時間を確保、ホームに対する意見が出しやすい環境作りに一層努めたい。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>・年に1回、運営者が職場懇談会を設けたり、管理者は日常から職員の意見要望を聞くよう努めている。</p>	<p>・積極的に職員の声に耳を傾け、反映できる様、定期的に意見を聞く機会を充実させたい。</p>

駒ヶ根市認知症高齢者グループホームほほえみの家

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		<p>・職員の養成、ニーズに応じた人員確保。</p>
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>		
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>		
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>		<p>・上伊那圏域のグループホーム連絡会にて、管理者のみならず、広く職員同士の交流の場が持てるよう、新年度に機会を設ける計画である。</p>
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>		<p>・職員の懇親会の開催。</p>



駒ヶ根市認知症高齢者グループホームほほえみの家

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>・毎年、職場懇談会の開催により、個々の職員の勤務内容や実績について把握している。</p> <p>・各自が向上心を持って働き続けられるよう、必要に応じて研修派遣などに努めている。</p>		<p>・社協の組織機構の改革と給与制度の見直しにより賃金アップを図っている。</p>
<p><b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b></p> <p><b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b></p>				
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>・入居利用開始前の見学、通い利用での試み期間を設けたり、従来より続けているサービス事業所との連携、センター方式のシートの一部活用によりご本人様の思いや願いを受け止めていけるよう努めている。</p>		
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>・利用開始前には、見学・面談を重ねながらご家族様の想いを傾聴する機会を多く持てるように努めている。</p>		
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>・従来より受けているサービスの担当事業所や担当ケアマネジャーと連携しつつ、より良い支援について検討していけるよう努めている。</p>		
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>・利用開始前に、通い利用での受け入れを勧め、双方共に馴染めるような時間の確保に努め、ご利用者様の戸惑いや不安を解消できるよう努めている。</p>		

駒ヶ根市認知症高齢者グループホームほほえみの家

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>・ご利用者様に郷土料理、昔からの習慣や慣わしを聞きながら共に仕事をしたり、教えて頂いたりしながら、持ちつ持たれつを保っている。生活の中でスタッフの出来ない事を教え支えて頂き「お互い様」の関係作りを大切に支援している。</p>	<p>・ご利用者様と共感理解を深められ、多くの場面で支えあう関係作りが出来るよう、支援のあり方にさらに工夫をしていきたい。</p>
28	<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>・行事へのご家族様参加、ご家族様も一緒に行事企画・準備する機会を通じて、共に支え合っていく関係作りに努めている。</p> <p>・個別支援の提案等を通して、ご家族様と共に実現するケアの取り組みに努めている。</p>	<p>・ご利用者様の季節毎の衣替えや生活の身の回り品の補充等を通じて、ご利用者様が家にいる時のような思いでの支援が継続していくよう努めていきたい。</p>
29	<p>本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している</p>	<p>・ご家族様それぞれの長い歴史の中の想いに配慮しつつ、ご本人様との良い時間が築かれていくようご家族様来訪の折には、様子に合わせてスタッフも仲介したり支援できるよう努めている。</p>	<p>・ご家族様面会時には、ゆっくりと過ごして頂けるような場所の配慮や、コミュニケーションが十分でないご利用者様の代弁に努めたり、ご家族様ならではの過ごし方が出来るよう支援に取り組んでいきたい。</p>
30	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>・なじみの美容院に引き続いて通ったり、自宅地域でのサロン参加や習い事を継続できる支援、大切な人への手紙のやりとり等、関係継続の支援に努めている。</p>	<p>・生活史等の聞き取りを通じ、ご本人様の願いに合わせ、大切な人等との関係をつなぐ支援を継続していく。</p>
31	<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている</p>	<p>・食卓テーブルの配置の考慮、ご利用者様同士の関わりが広がる場面設定など、スタッフがさりげなく調整役を務め、支えあいの関係を支援している</p>	<p>・それぞれの考え思い、個性の違いを理解し合えるようご利用者様同士の関わり合いのフォローに努めていく。</p>

駒ヶ根市認知症高齢者グループホームほほえみの家

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み  サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	・必要に応じて、退所後の生活の場やご家族様の訪問を行い、ご利用者様・ご家族様の気持ちや関係のフォローアップを行っている。		
<b>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
<b>1. 一人ひとりの把握</b>				
33	思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・ご本人様やご家族様から話を伺う中、思いや希望を汲み取れるよう努めている。センター方式の一部活用も進め、ご本人様の想いに近づけるよう努めている。		
34	これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・利用開始前にご家族様やなじみの人からの情報を提供していただいたり(センター方式の一部活用)、従前のサービス事業所との担当者との連携をとっている。		
35	暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	・各スタッフがご利用者様一人ひとりの日々の状況把握に努め、申し送り・スタッフ連絡帳にて情報共有を行っている。毎月の介護支援経過記録で月ごとの評価を行い、ご利用者様の現状を総合的に把握出来るよう取り組んでいる。		・センター方式のシートを一部活用し、「出来る事・出来ない事・出来るけど取組んでいない事」等について状況把握の上、共有し日々の支援に活かしていきたい。
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	・ご本人様のつづやきや、ご家族様の話・スタッフの提案を考慮しながら、介護計画を作成している。 ・月2回ケア会議を実施し、スタッフ全体でケアのあり方について、検討を行っている。		

駒ヶ根市認知症高齢者グループホームほほえみの家

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	・月2回のケア会議でケアの状況について検討し、ご利用者様の変化に応じて見直しを行い、新たな介護計画を作成している。		
38 個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・日々の記録や申し送り事項から、個別の介護支援経過記録を作成、ケア会議で情報共有しながら、ケアの検討・見直し・実践へとつなげていけるよう努めている。		・記録の中に気づきや工夫が残せ、伝達共有できるような個別記録の検討。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>			
39 事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	・グループホーム内の支援だけでなく、ご本人様の願いやご家族様の状況に応じた支援が出来るよう、取り組んでいる。		一人ひとりのご利用者様合わせた柔軟な支援を考えていきたい。
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>			
40 地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	・公民館や地区ボランティアの協力を得ながら、公民館活動や地区行事への参加支援を行っている。		・教育機関のボランティア協力、民生委員さんに積極的に関わって頂けるよう調整を図っていく。
41 他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	・入居前に利用されていた介護保険外サービスについて、継続利用できるように関係機関と連携を図っている。		



駒ヶ根市認知症高齢者グループホームほほえみの家

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
42	<p>地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>	<p>・長期的なケアマネジメントについて、包括支援センター主任ケアマネに相談にのってもらい、より良い支援の検討を行っている。</p>		
43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>・かかりつけ医による定期受診に加え、日頃から健康面の相談にのって頂いている。体調不良時には、早期受診・往診の対応が出来るようご家族様と協働して付き添い、同行を支援してきている。</p>		
44	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>・特別には実施していない。</p>		
45	<p>看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>・グループホームの協力医、医院の看護師に日常の健康状況を報告・相談し、必要に応じて受診、医師の往診をお願いしている。看護師資格を持ったスタッフをパート勤務で確保し、出勤時には健康管理のフォローアップを依頼している。</p>		<p>・訪問看護ステーションとの連携による、医療連携体制の早期整備。</p>
46	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>・入院時には小まめに訪問、ご本人様との顔をつなぐ中、病院関係者と病状や日頃の生活状況についての情報交換を行っている。</p> <p>・早期より医師とカンファレンスの機会を持ち、早期退院に向けた調整を行っている。</p>		
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>・折に触れ、ご家族様の意向を伺い、またご本人様の現在の体調について主治医に相談し、今後の支援の有り方について話し合う機会を持てるよう努めている。</p>		<p>・ほほえみの家としての現状での支援方針を全員で共有すると共に、ご家族様、主治医とご利用者様お一人ひとりのこれからのケアの有り方について、共有できるよう取組んでいきたい。</p>

駒ヶ根市認知症高齢者グループホームほほえみの家

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		<p>・社会の流れの中で、グループホームに期待されている事、グループホームとして出来る事を皆で理解共有し、その共有理解をベースに重度化や終末期に向けてより一層医療機関との連携が図れるよう、医療連携体制加算取得の早期実現を目指していきたい。</p>
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		<p>・住み替えが必要になったケースでは、新しい生活の場をご本人様と事前訪問し、生活様式等を確認しながら情報交換を行う。それに基づき予測される状況について共同でカンファレンス実施し、住み替えのダメージを最小限に出来るよう協働していく。住み替え後も情報交換を密に行い、生活支援のフォローアップに努めていく。</p>
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>		<p>・現状の取り組みを維持しながら、言葉かけや対応・個人情報の扱いについては定期的に振り返り、反省、改善向上を図っていきたい。</p>
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>		<p>・意思表示困難な方や自ら希望をなかなか言われない方へ、より一層のアプローチや意思の汲み取り・推察を心がけ、支援検討していきたい。</p>

駒ヶ根市認知症高齢者グループホームほほえみの家

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52 日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・時間に縛られることなく、お一人ひとりの想いに合わせて外出したり、夕食後の希望に合わせて団欒のひとときを過ごすことが出来るよう支援している。 ・「～したいねえ」の言葉を大切に支援に活かしている。		・「ご本人様の為に・・・」が「介護者の為に・・・」にすりかわっていないか自問自答の姿勢を持ち、定期的な振り返りの実施。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	・今まで行っていたなじみの理容店・美容室に継続していけるよう、ご家族様と協力して支援している。その日の好みを聞きながら一緒に、また状況に合わせて一緒に洋服を選ぶように心がけ、その人らしさが引き立てられるよう努めている。		・今まで使用していた化粧品類の継続使用や、なじみの店に継続していける様、一人ひとりの支援の充実。
54 食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・「今日何が食べたい？」の声かけにより、料理の本を見ながら一緒にメニューを考え、買い物に出かけたり取り組んでいる。それぞれの方が関わりを持てるよう、出来る事を少しずつ場面を分けて役割を持ち合いながら協力して頂いている。		・ご利用者様一人ひとりの出来る事についてアセスメントを細やかにを行い、共有し、ご利用者様が自ら関わりを持てるような支援につなげて行きたい。
55 本人の嗜好の支援  本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	・お酒・タバコについては健康面の問題から必ずしも望み通りの支援を提供できていない。(アルコール依存症既往のご利用者様あり、全ご家族様の理解・協力を得てグループホーム内での飲酒を控えている。個別には外出時に楽しめるようご家族様の協力をお願いしている)		・ご家族様からあらためて情報を寄せて頂くなど個別のニーズを細やかに捉え、必要に応じて実現できる個別の支援方法の検討。
56 気持ちよい排泄の支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	・生活の流れや、ご本人様の動き、排泄パターンを察し、タイミングでのお誘いで、失禁が軽減するよう取り組んでいる。緩下剤ではなく整腸剤の使用、毎日の発酵乳製品と腹部マッサージにて気持ちよく排泄出来るよう工夫している。		・ご自分でトイレに行く事が出来ないご利用者様に対して、ご本人様の小さなサインでも気付き察知できるよう、実践に向けてより努力して行きたい。

駒ヶ根市認知症高齢者グループホームほほえみの家

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>		<p>・車椅子利用されているご利用者様に可能な限り湯船に浸かれるよう努めているが、ご利用者様がより入浴しやすい様に新たな福祉用具検討や、デイサービス事業所との連携を検討していきたい。</p>
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>		<p>・眠れない傾向のご利用者様に関しては、要因を多方面からアセスメントし、ケアを検討し改善し試みるステップを共有し実践に活かしていきたい。</p>
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>		<p>・ご家族様から寄せて頂く情報をスタッフ間で伝達共有、継承し、一人ひとりが生き生きとできる役割、楽しみ事の支援充実を図りたい。</p> <p>・スタッフがご利用者様に常に「ありがとう」と言え、それが活力へと繋がる支援を継続したい。</p>
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>		
61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>		<p>・その日の希望に合わせて、買い物や近隣の公園散歩等、スタッフと一緒に外出出来るよう日常的に支援している。</p>

駒ヶ根市認知症高齢者グループホームほほえみの家

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
62 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	・希望に応じて実家への外出、お墓参り等個別の外出支援に取り組んだり、普段の会話等から行ってみたい所へ外出できる機会を支援している。(季節毎の花の名所など)また、仲間やご家族様と一緒に出かけられる機会を作り、支援している。		・皆一緒に・・・の機会も大切にしつつ、個別の支援も大切に行きたい。 ・一人ひとりの希望や願いにそって外出支援が出来るよう、ご家族様の協力、ボランティアの充実。
63 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・ご家族様からの電話を受け、ご本人様が直接会話できる機会を設けたり、こちらから電話をかけたり、親しい知人に手紙を書く機会を支援したりとつながりが保てる支援を心がけている。		
64 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	・自室にてゆっくりと語らって頂けるようお茶・お茶菓子等のもてなし、ホームでの様子をお伝えし、間を取り持つ等、共に心地良く過ごせるよう配慮を心がけている。		
(4)安心と安全を支える支援			
65 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・学習会を持ち、職員に学びの機会を確保。正しい理解に向けて取り組み、ご利用者様の安全を考えながらも身体拘束を行わないよう努力している。		・正しい理解とそれに基づく支援のあり方、振返り・確認ができるような継続した学習の機会を確保。一つひとつの介助がご利用者様の行動や思いを制限していないか、現状の支援状況について振返り、共有、確認を確実にやっていく。
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	・玄関等のチャイム、鈴等の使用にて、日中鍵をかけないケアを心がけている。 ・一人外出されるケースでは、制限するのではなく「気をつけてね」の声かけのみにし、見守りにて支援している。		・ご利用者様の自由な外出をサポートしていく為、地域との連携～一緒に見守る体制作りに取り組んでいきたい。



駒ヶ根市認知症高齢者グループホームほほえみの家

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認  職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	・ご利用者様の行動パターンを知り、行動を推測すると共に、スタッフ間の見守り連携を図っている。夜間の混乱、転倒のリスクの高いご利用者様には、離床センサーを使用させて頂き早めの対応が出来るよう配慮している。		・思わぬ行動状態の把握、推測、共有を図り次の行動を予測しつつ安全に配慮していく。 ・スタッフ間での声掛け、連携を徹底し、さりげなくも確実な安全配慮、見守りを実施する。
68 注意の必要な物品の保管・管理  注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	・ご利用者様の状況により、目線から外して保管する工夫をしている。(包丁、生ゴミ、洗剤など)		
69 事故防止のための取り組み  転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	・ヒヤリハットの記録、報告を活用し介護場面でのリスクについて学び、個々の予測される危険を検討・危険回避の対応方法を共有できるよう努めている。		・ヒヤリハットのケースからの学びを継続、チームで事故防止に取り組ん行きたい。
70 急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	・ご利用者様の急変や事故発生時の対応はマニュアルを整備すると共に、救急法の勉強会を行い、急変時の対応が出来るよう備えている。		・救急法については、定期的な継続研修として計画していく。 ・マニュアルについては、随時見直し更新しながら活用していけるよう整備していく。
71 災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	・避難訓練の実施や(ホーム単独の訓練に加え、近隣の住民協力者も交えた避難誘導訓練を実施している)、訓練から想定されるリスクを拾い上げ、ご利用者様が避難できる方法について検討・訓練に取り組んでいる。		・近隣の支援協力体制の確立。
72 リスク対応に関する家族等との話し合い  一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	・現状のご本人様の様子と予測されるリスクの状況について説明し、支援方法によるメリット・デメリットについてお伝えしながら、ご家族様とより良い支援の方法について共に考えている。		

駒ヶ根市認知症高齢者グループホームほほえみの家

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>	<p>・体調変化が感じられたり、確認された場合には出勤者で状況把握を行い、グループホーム協力医あるいは主治医に報告相談、次の対応指示を受け、実行するよう取り組んでいる。</p>	
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>・服薬管理表にて、全員の服薬内容について一覧確認できるようにしている。</p>	
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>	<p>・日頃より水分をしっかり摂って頂き、毎朝ヨーグルト等の乳酸菌食品を摂取したり食物繊維に富むメニューを工夫したりしている。出来るだけ体を動かして自然排便を促したり、腹部マッサージの支援を行ったりしている。</p>	
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>	<p>・食後、口腔ケアを実施出来るように働きかけている。 ・歯科衛生士との連携により、個別のニーズにそった口腔ケアができるよう指導を受けながら支援を行っている。</p>	<p>・専門職との連携の下、継続支援していく。</p>
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>・食事は、個別記録し、状況に応じた食事支援が出来るよう検討している。水分量は現状で留意が必要な方について記録し、1日の必要量が確保出来るよう、スタッフともども連携し支援している。栄養バランスについては栄養士による定期的指導を実施。</p>	<p>・今後も法人の栄養士の定期的指導を実施し、ご利用者様の健康維持に努めていく。</p>

駒ヶ根市認知症高齢者グループホームほほえみの家

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	・スタッフはもちろん、ご家族様、ボランティア等来訪の時には、うがい・手洗い(すり込み式消毒)の励行に取り組んでいる。インフルエンザ予防接種の実施(全職員・ご利用者様)や、各感染症対応マニュアルを整備し、対応している。		・法人内でも感染症対策マニュアルの整備をはかっており、それに基づき、当グループホームでのマニュアルも検討、更新をはかっていく。
79 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	・調理用具等の消毒を毎日実施している。ほぼ毎日買い物に出掛け新鮮な食材の購入に努める共に、日々の調理担当スタッフが賞味期限等、食品の品質管理をチェックしながら食材を使用している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
80 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	・表通りからホームへの入り口を門・フェンス等で囲うことはせず、庭先のベランダ越に近所の方が遊びに来たり、顔見知りになった近隣の方をベランダから招いてお茶にしたり、親しみやすく訪ねることが出来る建物になるように工夫している。		・近隣の方が散歩やお茶のみがてら、ちょっと寄れる親しみやすいホームとなるよう花壇の整備や環境を工夫し維持していきたい。
81 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・共用空間や玄関等に花や季節の飾り物を飾ったり、植物を育てたり季節感が感じられるよう努めている。 ・「夕方になると早めに障子を立ててほしい」等ご利用者様の生活習慣に沿った環境の整えに配慮している。		
82 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・お気に入りの場所で過ごせたり、椅子・テーブルの位置、向きでクローズな空間を確保し思い思いに過ごせるように場を保っている。		

駒ヶ根市認知症高齢者グループホームほほえみの家

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・ご本人様が今まで使用されていた家具や大切にされていた物など、ご本人様と相談しながら、また、ご家族様の協力を得つつ心地良く過ごせる空間作りに配慮している。		
84 換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	・朝の清掃時には一斉に換気を行い、空気の入替えを行うと共に、トイレやお部屋等の個室は必要に応じて消臭剤等も併用しつつ、換気に努めている。エアコンの新規設置により、夏・冬季にも温度変化に応じた調整を行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85 身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・一人ひとりの動きに合わせたベット位置の工夫など、出来るだけ自立した生活ができるよう配慮している。		
86 わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	・ご利用者様の混乱されている状況の原因を捉えて、トイレの入り口に「トイレ」の表示を出したり、昔なじみの「落とし紙」を使用したり・・・と環境を整えている。		
87 建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	・本年度は庭先の小さな畑を確保し、畑仕事や収穫を楽しんだり、またベランダから眺めて楽しめるよう支援している。		・新年度の取り組みとしてベランダ・庭を活用し地域の方と交流できる空間作りに努めたい。

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所に つけること)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない



駒ヶ根市認知症高齢者グループホームほほえみの家

項目		取り組みの成果 (該当する箇所に をつけること)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている
		少しずつ増えている
		あまり増えていない
		全くいない
98	職員は、生き活きと働いている	ほぼ全ての職員が
		職員の2/3くらいが
		職員の1/3くらいが
		ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が
		利用者の2/3くらいが
		利用者の1/3くらいが
		ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が
		家族等の2/3くらいが
		家族等の1/3くらいが
		ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・グループホーム「ほほえみの家」は、地域のつながりを大切にした家庭的な雰囲気の明るいホームです。
- ・地域の一員として地域の行事などに積極的に参加できるよう支援しています。
- ・ご利用者様の声を聴き、想いや願いに添った暮らしが日々重ねていける様、小さな気付きから柔軟に実践に移すことに努め、ご利用者様が穏やかに過ごせるようご利用者様中心のケアを大切に取り組んでいます。
- ・当ホームを訪れて下さる方、皆様に「明るくアットホームで良い」とのお言葉を頂きありがとうございます。また、外部研修生・ボランティア等の受け入れ時の感想で「自分の親がお世話になりたい」という言葉をよく頂きますが、最高の誉め言葉であると有り難く受け止めています。